

研究実践項目を作成し、実践に移した。

(表2)

三、研究実践の経過

- (一) アンケート調査の実施と分析検討
- (二) 対策案(実践項目)の作成
- (三) 実践の概要

- 1、「リーダー研修会」の実施
十二月から三月上旬まで七回実施。
- 2、「ホームルーム別合宿」の実施。
第二学年は全クラス実施。
- 3、シヨトホームルームにおける個別話しかけ運動の実施。
- 4、十五学級全部に「伝達黒板」を設置した。
- 5、「伝達メモ」を採用し全クラス均等の伝達をはかった。

四、研究成果と今後の課題

- (一) 研究成果
1、「リーダー研修会」は、回を追うごとに、生徒の意識の高まりが感じられ、一つ一つの行動も俊敏になり、積極的な意見の交換が行われるようになった。また、参加した生徒は、各ホームルームにおいて、リーダーとして動き出している。
- 2、「伝達メモ」や「伝達黒板」の設

- 6、二月一日から二週間、「対話月間」を設定し、教師と生徒の触れあい運動を進めた。
- 7、現行ロングホームルーム計画の一切を見直し、低調な原因を追求。

表2 具体的研究実践項目

シヨートHR関係

- (1) 「個別話しかけ運動」「触れあい運動」その1)
- (2) 担任と生徒各係の伝達内容の分担。
- (3) 「伝達メモ」の採用。
- (4) 「伝達黒板」の設置。
- (5) 各クラス代議員による「生徒会だより」

ロングHR関係

- (6) 現行LHR年間計画一切の再検討
- (7) 生徒によるLHR自主活動案の作成
- (8) 「公開ロングHR」による教師の相互見学
- (9) LHR実施記録簿の公開
- (10) LHR年間計画への合同・共通HRの週間設定
- (11) 「HRリーダー研修会」の開催
- (12) 「ホームルームの手引」作成

ホームルーム自主活動関係

- ◎環境美化運動
 - (13) 自主活動推進委員会
 - (14) 花壇の作成。
 - (15) 校内美化活動
- (16) ホームルーム別自主活動(合宿も含む)

相互理解を深めた中での目的意識の育成関係

- (17) 「個人別カード」「自己診断カード」の作成
- (18) 「対話月間」の設定(「触れあい運動」その2)
- (19) 「学習ガイダンス」「相高カレンダー」の作成
- (20) 「助けあい学習」

第一研究班

第二研究班

第三研究班



▲生き生きとしたホームルーム活動でのもちつき(相馬高校)

置によって、全校生に同質の伝達ができるようになった。

- 3、「対話月間」の実施によって教師と、生徒相互の距離が縮まり、自由な雰囲気ではしゃぐようになった。
- 4、教室内の整備、美化については、特設ホームルームで話し合いを持った結果、互いに注意し合い美化に心かけるようになった。

(二) 今後の課題

第一年次の計画の実践を継続するとともに、その内容に検討を加え、より具体化する中で、教師立導の実践活動から生徒立導の実践へ移行するよう心がけ、生徒の自主性にささえられたホームルーム活動にしてゆかなければならない。

- 1、昨年のロングホームルームの見直しの結果をふまえて、計画および運営方法の改善、また、反省記録、実施記録簿の整備など具体的に実践する。
- 2、「対話月間」で使用した「対話カード」の活用工夫に加え、事後処理の方法および事後指導での活用方法をも具体化する。

基本的な生活習慣の確立をはか
るための生活指導の探求

(時間・服装・礼儀を
中心として)

— 坂下高等学校

はじめに

坂下高校は、生徒数五〇二名の中規模普通高校である。生徒は温和、純朴で明るい雰囲気をもっているが、積極的に勉学に取り組もうとする意欲に欠けるところがある。

しかし、部活動は盛んで、全生徒の八五%が参加し各種大会における成績は年々向上している。また、生徒のほぼ七〇%が就職である。

一、研究主題の設定

生徒の日常生活の中で不足している点を具体的な事例から整理し、次の三